

《研究ノート》

明星大学大学院教育学専攻が果たしてきた役割

——人文学研究科教育学専攻の成立と変遷を中心に——

廣嶋 龍太郎

■ アブストラクト

本稿では明星大学の学内資料と周年史を踏まえて明星大学大学院人文学研究科の成立と教育学専攻の設置について概観し、設置当初の目的や専攻科目・科目担当者等の構成を確認するとともに、学内紀要等を用いて修了生の変遷から、同大学院が果たしてきた役割を論じる。

明星大学大学院教育学専攻は本学大学院で2番目に設けられた専攻であり、修士課程では不明の4年間を除いた149名の修了生を輩出していた。また、明星大学で初めて博士課程を開設した専攻であり、1983(昭和58)年の李園会による博士論文が本学第一号の文学博士となり、その後10名を超える学位取得者を輩出し、19名の修了生が大学等の研究者となっていた。このことから、大学院設置の目的であった「高度にして、専門的な学術の理論及び応用を教授、研究し、その深奥を極めて、知的、道徳的及び応用的能力の展開により全人間形成につとめ国家、社会に貢献し得る有能な人材を育成する」については一定の成果を得たと考えることができ、「教授後継者の養成」の役割を果たしてきたと言える。

■ キー・ワード

明星大学大学院の歴史 History of Meisei University Graduate School

修了生の進路 Career Paths of Graduates

自校史教育 School History Education

■ 目次

1. 研究の課題と先行研究の検討
2. 明星大学大学院の学校資料と周年史
3. 明星大学大学院人文学研究科の成立と教育学専攻の設置
4. 人文学研究科教育学専攻の変遷
5. まとめと課題

別表1 明星大学大学院「教育学専攻」沿革と博士学位取得者

別表2 人文学研究科教育学専攻修了の研究者

1. 研究の課題と先行研究の検討

明星大学は1971(昭和46)年に大学院人文学研究科社会学専攻修士課程を設置し、翌1972(昭和47)年に同研究科教育学専攻修士課程を増設した。また、1974(昭和49)年には人文学研究科教育学専攻博士課程を設置し、後の教育学研究科教育学専攻の前身となった。

明星大学開学に関する先行研究は、児玉九十・児玉三夫著『明星ものがたり』や児玉九十自伝編纂委員会『児玉九十自伝』など当事者の記述が詳細に残っているが、両文献には大学院設置の内容はほとんどない。また、明星大学大学院設置当初に関する先行研究は『明星大学十年史』と『明星大学20年史』があり、設置から約10年間の推移はある程度記されているものの、その後の変遷については限定的であり、『明星大学五十周年記念誌Ⅰ—五十年の歴史』(以下、『五十周年史』と略す)を含めても十分に言及されているとは言えない。「人文学部」の設置当初を扱った研究論文としては、高島秀樹「明星大学開設初期における『研究紀要』(2):人文学部:明星大学開設初期における『研究紀要』(2):人文学部:解題」があり、人文学研究科設置当初に関する言及も散見されるが、明星大学大学院人文学研究科の変遷を主題とした研究論文は管見の限り見当たらない。

そこで、本稿では学内資料と周年史を用い、明星大学大学院人文学研究科の成立と教育学専攻の設置について、設置当初の目的や専攻科目・科目担当者等の構成を概観する。また、『明星大学20年史』、『教育学研究紀要』、人文学研究科『年報』を用いて修士課程修士生の変遷を確認し、博士学位論文の公開資料を用いて博士学位取得者の変遷を整理した上で、同専攻が教育学の研究者養成に果たしてきた役割について指摘したい。

なお、本稿は教育史の中でも「自校史」の領域に関連する内容である。寺崎昌男によれば、学生にとっての自校教育は「自学の理念・使命・目的」の周知、「自校史沿革」の理解、「大学への帰属意識の涵養」を目的とするものが多い¹⁾が、同時に教職員にとってはFD・SDの役割を持つと指摘される²⁾。本研究を通じて大学院の変遷を論究することで、今後の大学院の在り方を検討し、大学院における教育内容や方法の検討につなげることができる。

教育学専攻設置に関する学内資料については個人情報も含むため、学歴や教歴については省略し、代わりに紀要等で公開している情報から引用した。また、修了生と学位取得者の変遷に関する資料についても一般に公開された内容を前提に整理した。

2. 明星大学大学院の学校資料と周年史

本稿で使用する明星大学大学院の学校資料(1次史料)と明星大学周年史(2次史料)を年代順に紹介すると以下の通りである。煩雑になるため学校資料の説明は注記で付し、詳細は本稿各章の必要に応じて説明する。

学校資料(1次史料:時系列順)

『明星大学研究紀要—人文学部—』(1965年-) ³⁾

『めいせい』(1967年 -)⁴⁾

『めいせい時報』(1969年 - 2002年)⁵⁾

「昭和46年度開設明星大学大学院設置要項」(1970年)⁶⁾

「昭和47年度開設明星大学大学院設置要項」(1971年)⁷⁾

「大学院の研究科および専攻の増設について(通知)」(1972年)⁸⁾

『教育学研究紀要』(1986年 - 2010年)⁹⁾

人文学研究科『年報』(2002年 - 2013年)¹⁰⁾

「設置の趣旨等を記載した書類」(教育学研究科)(2013年)¹¹⁾

明星大学周年史(2次史料)

『明星大学十年史』(1974年)¹²⁾

『明星大学20年史』(1984年)¹³⁾

『明星大学四十年史』(2004年)¹⁴⁾

『明星大学五十周年記念誌 I — 五十年の歴史』(2014年)¹⁵⁾

なお、大学院に関する記述は学苑周年史の『明星学苑50年史』(1973年)と『明星学苑60年史』(1983年)にも存在するが、明星大学周年史と重複するため今回は用いない。

3. 明星大学大学院人文学研究科の成立と教育学専攻の設置

明星大学は1964(昭和39)年4月に、理工学部物理学科、化学科、機械工学科、電気工学科、土木工学科の5学科で開学した。1965(昭和40)年には人文学部英語英文学科、社会学科、心理・教育学科の3学科を開設し、翌1966(昭和41)年には人文学部経済学科を増設した。『五十周年史』によれば、開学以来7年を経過して学部学科の充実が進むと大学院設置を望む声が必然的に起こってきたとされる¹⁶⁾。このため、1970(昭和45)年春、理事会において大学院を設置する決定がなされ、初年度は定員10名の人文学研究科社会学専攻修士課程を開設することとし、同年11月30日に坂田道太郎文部大臣宛てに「明星大学大学院設置申請書」を提出した。

「昭和46年度開設明星大学大学院設置要項」によると、申請時における設置目的は以下の通りである¹⁷⁾。

明星大学大学院は学部における一般的並びに専門的教育の基礎の上に、高度にして、専門的な学術の理論及び応用を教授、研究し、その深奥を極めて、知的、道徳的及び応用的能力の展開により全人間形成につとめ国家、社会に貢献し得る有能な人材を育成すると共に、人類文化の発展に寄与することを目的とする。

この目的に続けて、新設の学部学科等の名称として「人文学研究科社会学専攻」が記されており、学位は「文学修士」であった。その後、1971(昭和46)年3月31日に人文学研究科社会学専攻が認

可され、翌4月1日に開設された。申請時とほぼ同様の目的が『めいせい時報』に示されている¹⁸⁾。

翌1972(昭和47)年2月の『明星大学研究紀要—人文学部—』では、当時学長であった児玉九十が大学院開設について以下のように述べている¹⁹⁾。

大学に残る希望者も年々増加して参りましたので、昨年四月から人文学部社会学専攻の大学院(修士課程)を新設し、年々他科も順次増設し、教授後継者の養成にも遺漏なきを期したいと存じます。

このように、明星大学大学院開設の意図は、学部卒業生が大学に残るという希望に応じるとともに、教授後継者の養成を期したものであった。「年々他科も順次増設」の言葉通り、1972(昭和47)年の増設を目指して理工学研究科土木工学専攻と人文学研究科教育学専攻が文部省に申請された。2専攻増設時の「設置要項」に示された土木工学専攻の学位は工学修士、教育学専攻の学位は文学修士であり、各専攻の修業年次は2年間、入学定員は10人、収容定員は20人であった²⁰⁾。

同申請は1972(昭和47)年3月30日に、「大学院の研究科及び専攻の増設について(通知)」(校次第153号)によって、設置要項の通りの定員、就業年限、学位等が承認された²¹⁾。このように、人文学研究科教育学専攻は明星大学大学院の第二の専攻として設置されたのである。

次に、設置当初の教育学専攻の授業科目と担当者について確認したい。同申請書の人文学研究科教育学専攻授業科目は以下の通りである。

表1 設置申請時における人文学研究科教育学専攻授業科目²²⁾

| 授業科目 | 単位数 | | | 備考 |
|----------|-----|----|----|-------------|
| | 必修 | 選択 | 自由 | |
| 教育学特講Ⅰ | | 4 | | } 3科目以上選択必修 |
| 教育学特講Ⅱ | | 4 | | |
| 教育学特講Ⅲ | | 4 | | |
| 教育学特講Ⅳ | | 4 | | |
| 教育学特講Ⅴ | | 4 | | |
| 教育史特講Ⅰ | | 4 | | |
| 教育史特講Ⅱ | | 4 | | |
| 教育史特講Ⅲ | | 4 | | |
| 教育心理学特講Ⅰ | | 4 | | |
| 教育心理学特講Ⅱ | | 4 | | |
| 教育社会学特講 | | 4 | | |
| 教育学演習Ⅰ | | 4 | | } 2科目以上選択必修 |
| 教育学演習Ⅱ | | 4 | | |
| 教育学演習Ⅲ | | 4 | | |
| 教育心理学演習 | | 4 | | |
| 教育史演習 | | 4 | | |
| 計 | | 64 | | |

なお、申請資料の手書きメモを見ると、「教育史演習」については審査の際に指摘がつき、科目を取り下げるか再審査を行うかの選択を迫られた模様である。『明星大学十年史』には「教育史演習」の科目名が見られることから、担当者を変更して申請したことが窺える。

1972(昭和47)年に入学者を迎えた当初の授業科目、単位数、担当者一覧は、同年の『めいせい時報』に掲載されている。各科目の担当者は表2の通りである。

表2 教育学専攻修士課程増設時における科目名・単位数・授業担当者²³⁾

| 授業科目 | 単位数 | 担当者 | 授業科目 | 単位数 | 担当者 |
|----------|-----|------------|------------|-----|---------|
| 教育学特講(Ⅰ) | 4 | 教授 飯田晁三 | 教育心理学特講(Ⅰ) | 4 | 教授 安倍三郎 |
| 教育学特講(Ⅱ) | 4 | 教授 鯨坂二夫 | 教育心理学特講(Ⅱ) | 4 | 教授 酒井 清 |
| 教育学特講(Ⅲ) | 4 | 講師 山田 栄 | 教育社会学特講 | 4 | 教授 福永安祥 |
| 教育学特講(Ⅳ) | 4 | 教授 岡田正章 | 教育学演習(Ⅰ) | 4 | 教授 飯田晁三 |
| 教育学特講(Ⅴ) | 4 | 助教授 前之園幸一郎 | 教育学演習(Ⅱ) | 4 | 教授 鯨坂二夫 |
| 教育史特講(Ⅰ) | 4 | 講師 渡部 晶 | 教育学演習(Ⅲ) | 4 | 講師 山田 栄 |
| 教育史特講(Ⅱ) | 4 | 講師 山下 武 | 教育史演習 | 4 | 講師 渡部 晶 |
| 教育史特講(Ⅲ) | 4 | 助教授 松野憲二 | 教育心理学演習 | 4 | 教授 安倍三郎 |

これらに関して、当時副学長の児玉三夫は、1972(昭和47)年12月の『明星大学研究紀要—人文学部—』で以下のように述べている²⁴⁾。

今年4月より、昨年の社会学に引き続き大学院人文学研究科に教育学専攻修士課程を設置することが認可になったことを、皆様と共に喜び申し上げたい。飯田晁三教授、安部三郎教授を柱とする陣容は全く素晴らしく、ご尽力いただいた多くの研究室の先生方のご苦勞に深く感謝を捧げたいと思う。

このことから、児玉三夫が飯田晁三、安部三郎の2名を教育学専攻の柱と評価していたことが分かる。飯田については『めいせい時報』の教育学研究室紹介で「フランス教育制度・思想」の教員であると示されている²⁵⁾。また、安部については2年後の『明星大学研究紀要—人文学部—』において「心理学。東北大卒、文博、建国大・昭和女子大を経て昭40就任」²⁶⁾と示されている。



図1 飯田晁三写真 図2 安部三郎写真
(いずれも『めいせい』1(2)1967年の「先生のプロフィール(2)」より抜粋²⁷⁾)

1972(昭和47)年5月1日に、第1回明星大学大学院入学式が挙行された。最初の入学者は理工学研究科土木工学専攻修士課程2名、人文学研究科社会学専攻修士課程1名、同教育学専攻修士課程1名の計4名であった。翌1973(昭和48)年5月1日には第2回明星大学大学院入学式が挙行され、同年新たに設置された理工学研究科化学専攻修士課程に3名、人文学研究科社会学専攻修士課程に1名が入学した。

上記のように人文学・理工学の2研究科を設置して軌道に乗ると、明星大学は博士課程の設置を目指した。『五十周年史』によれば、「博士課程はすでに修士課程を設置している3専攻の上に設置するという積み上げ方式をとること」とし、「諸事情を考慮した結果、既設の3専攻のうち、まず、教育学専攻に博士課程を設置する」ことに決めて設置を目指したとされる²⁸⁾。修士課程の開始から2年後の1974(昭和49)年に博士課程の設置が認可されることとなり、募集定員は3名でスタートした。博士課程の申請時の学内資料については確認できなかったため、同年発行の『明星大学十年史』の記載によると、担当者は表3の通りである。

表3 教育学専攻博士課程開設時における科目名・単位数・授業担当者²⁹⁾

| 授業科目 | 単位数 | 担当者 | 授業科目 | 単位数 | 担当者 |
|--------------|-----|------------|---------------|-----|------------|
| 教育学特殊研究(I) | 4 | 教授 飯田晁三 | 教育史特殊研究(V) | 4 | 講師 山下 武 |
| 教育学特殊研究(II) | 4 | 教授 山田 栄 | 教育社会学特殊研究(I) | 4 | 教授 福永安祥 |
| 教育学特殊研究(III) | 4 | 教授 岡田正章 | 教育社会学特殊研究(II) | 4 | 教授 伊藤 章 |
| 教育学特殊研究(IV) | 4 | 講師 鯉坂二夫 | 教育学演習(I) | 4 | 教授 飯田晁三 |
| 教育学特殊研究(V) | 4 | 講師 大島三男 | 教育学演習(II) | 4 | 教授 山田 栄 |
| 教育史特殊研究(I) | 4 | 教授 山田 栄 | 教育学演習(III) | 4 | 教授 岡田正章 |
| 教育史特殊研究(II) | 4 | 助教授 前之園幸一郎 | 教育史演習(I) | 4 | 助教授 前之園幸一郎 |
| 教育史特殊研究(III) | 4 | 助教授 松野憲二 | 教育史演習(II) | 4 | 助教授 松野憲二 |
| 教育史特殊研究(IV) | 4 | 講師 渡部 晶 | 教育社会学演習 | 4 | 教授 福永安祥 |

教育学専攻博士課程の設置に関して、当時副学長の児玉三夫は、1974(昭和49)年7月の『明星大学研究紀要—人文学部—』で以下のように述べている³⁰⁾。

去る3月に、学苑50周年と大学10周年を記念してのヨーロッパ研修旅行団、百瀬甫教授を団長として木田教授・川野助教授・学生諸君40名余りが訪欧、英国の宿泊研修その他各地で望外の成果を得て無事帰国された。また今年度より大学院人文学研究科に修士課程心理学専攻、博士課程教育学専攻が認可されたことと併せてご同慶に堪えない。

このように、明星大学10周年、かつ明星学苑50周年を祝う一連の祝賀の中で、人文学研究科教育学専攻博士課程設置を祝す言葉が述べられている。一方で、同じ編集後記の中で修士課程設置時に柱とされた安部三郎が同年に逝去したことも記されている。

次に、明星大学が通信制大学院を設置したことにも言及しておきたい。1999(平成11)年に通信制大学院人文学研究科教育学専攻修士課程を開設し、2006(平成18)年には同博士課程を開設した。これらは2014(平成26)年には通学課程・通信課程ともに教育学研究科教育学専攻に改組し、今日に至る。

通学課程の教育学研究科教育学専攻の設置の際に、「教育学研究科設置の趣旨及び必要性」として示された内容を抜粋すると、以下の通りである³¹⁾。

平成22年4月に人文学研究科教育学専攻の基礎学科である人文学部心理・教育学科を改組、分離・独立させて教育学部を設置したが、この学部設置に伴って、人文学研究科教育学専攻は、

教育学部を基礎とする研究科に再構築することが必要となってきた。

そのため、教育学部1期生の卒業に併せて、平成26年4月に人文学研究科教育学専攻を改組、分離・独立して教育学研究科を設置し、教育学部を基礎とする研究科に再構築するものである。併せて昨今の初等中等教育における資質の高い教員ニーズに応えるため、専修免許状の取得可能なプログラムを備えた研究科とする。

上記の通り、人文学部心理・教育学科を改組・分離・独立して教育学部を設置したことを受け、教育学部の1期生卒業と同時に人文学研究科教育学専攻を教育学研究科教育学専攻に改組したのであり、人文学研究科教育学専攻を一部継承しつつも、教育学部の教育理念と接続する新たな研究科として発足したのである。

各研究科の発足と改組については、『五十周年史』における明星大学の年表に整理されている。教育学研究科が発足した2014(平成26)年までの明星大学大学院研究科・専攻の設置を抜粋すると、以下の表4の通りである。

表4 明星大学大学院研究科・専攻の変遷³²⁾

| 年 | 修士課程 | 博士課程 |
|-------------|--|---|
| 1971(昭和46)年 | 大学院設置認可 人文学研究科社会学専攻修士課程開設 | |
| 1972(昭和47)年 | 理工学研究科土木工学専攻修士課程開設 人文学研究科教育学専攻修士課程増設 | |
| 1973(昭和48)年 | 理工学研究科化学専攻修士課程増設 | |
| 1974(昭和49)年 | 人文学研究科心理学専攻修士課程増設 | 人文学研究科教育学専攻博士課程開設 |
| 1976(昭和51)年 | | 理工学研究科化学専攻博士課程開設 理工学研究科土木工学専攻博士課程開設 人文学研究科社会学専攻博士課程増設 |
| 1978(昭和53)年 | | 人文学研究科心理学専攻博士課程開設 |
| 1979(昭和54)年 | 理工学研究科物理学専攻修士課程増設 理工学研究科電気工学専攻修士課程増設 | |
| 1980(昭和55)年 | 理工学研究科機械工学専攻修士課程増設 | |
| 1981(昭和56)年 | | 理工学研究科物理学専攻・電気工学専攻博士課程増設 |
| 1982(昭和57)年 | 人文学研究科英米文学専攻修士課程増設 | 理工学研究科機械工学専攻博士課程増設 |
| 1998(平成10)年 | 情報学研究科情報学専攻修士課程開設(青梅校) | |
| 1999(平成11)年 | 人文学研究科教育学専攻修士課程(通信課程)開設 | |
| 2006(平成18)年 | 経済学研究科応用経済学専攻修士課程開設 | 人文学研究科教育学専攻博士後期課程(通信課程)開設 |
| 2008(平成20)年 | 理工学研究科建築・建設工学専攻博士前期課程増設 | 理工学研究科建築・建設工学専攻博士後期課程増設 理工学研究科環境システム工学専攻博士後期課程増設 |
| 2014(平成26)年 | 教育学研究科教育学専攻博士前期課程開設 教育学研究科教育学専攻博士前期課程(通信課程)開設 | 教育学研究科教育学専攻博士後期課程開設 教育学研究科教育学専攻博士後期課程(通信課程)開設 |

4. 人文学研究科教育学専攻の変遷

人文学研究科教育学専攻修士課程は1972(昭和47)年4月から2014(平成26)年3月までの42年間、博士課程は1974(昭和49)年4月から2014(平成26)年3月までの40年間³³⁾の歴史がある。そこで、本章では教育学専攻の在籍者の変遷をたどりたい。

まず、教育学専攻の定員については、設置時の書類から「修士課程10名、博士課程3名」であったことが明らかであるが、人文学研究科教育学専攻の募集最終年となる2012(平成24)年度の募集要項でも「博士前期課程10名、博士後期課程3名」であったことが確認されている³⁴⁾。

創設期における教育学専攻の在籍者の推移については明星大学の周年史に掲載されている。『明星大学十年史』には、1972(昭和47)年度入学生として人文学研究科「教育学専攻修士課程一名」が、1974(昭和49)年度入学生として人文学研究科「教育学専攻修士課程一名」と「教育学専攻博士課程二名」が記録されている³⁵⁾。その後の教育学専攻の入学者の変遷については、『明星大学20年史』において以下の表5の通り示されている。

表5 年度別教育学専攻入学者数(カッコ内の数字は女子数)³⁶⁾

| 入学年度 | 修士課程 | 博士課程 |
|--------------|------|------|
| 1972(昭和47)年度 | 1(1) | |
| 1973(昭和48)年度 | 0 | |
| 1974(昭和49)年度 | 1 | 2(1) |
| 1975(昭和50)年度 | 5(1) | 0 |
| 1976(昭和51)年度 | 2(2) | 1 |
| 1977(昭和52)年度 | 1 | 1 |
| 1978(昭和53)年度 | 1 | 0 |
| 1979(昭和54)年度 | 2(2) | 0 |
| 1980(昭和55)年度 | 2 | 0 |
| 1981(昭和56)年度 | 7(2) | 0 |
| 1982(昭和57)年度 | 6(4) | 1 |
| 1983(昭和58)年度 | 2(1) | 2(1) |
| 1984(昭和59)年度 | 4(1) | 1(1) |

表からは、修士課程では1974(昭和49)年以降途切れることなく入学者がいることが分かる。博士課程では入学者のいない年度が多い。1985(昭和60)年度以降の入学者に関する数字については公開資料の発見には至らなかった。

教育学専攻の修了者の変遷についても、『明星大学20年史』に11年分の人数³⁷⁾が公開されているが、これに続く『明星大学四十年史』と『五十周年史』では専攻別の修了者の公開をしておらず、教育学専攻の修了者を追うことはできない。そのため、1985(昭和60)年度から2012(平成24)年度までの修士課程修了生は、『教育学研究紀要』の修士論文一覧・概要と人文学研究科『年報』の論文要旨を用いて一覧を作成した。その結果が次頁の表6である³⁸⁾。

なお、両資料の狭間となる1984(昭和59)年度の修了生については「不明」とせざるを得なかった。1983(昭和58)年度の入学生は2名存在するため、当時の情報について継続的に収集する必要がある。また、博士課程の修了者(単位取得満期退学者)については『教育学研究紀要』と人文学研究科『年報』にも記載がないため「不明」とした。

表6 年度別教育学専攻修了者数³⁹⁾

| 修了年度 | 修士課程 | 博士課程 | 出典 | 修了年度 | 修士課程 | 博士課程 | 出典 |
|----------------|------|------|------|----------------|------|------|----|
| 1973 (昭和48) 年度 | 1 | | 二十年史 | 1994 (平成6) 年度 | 7 | 不明 | 紀要 |
| 1974 (昭和49) 年度 | 0 | | 二十年史 | 1995 (平成7) 年度 | 4 | 不明 | 紀要 |
| 1975 (昭和50) 年度 | 1 | | 二十年史 | 1996 (平成8) 年度 | 8 | 不明 | 紀要 |
| 1976 (昭和51) 年度 | 4 | 2 | 二十年史 | 1997 (平成9) 年度 | 7 | 不明 | 紀要 |
| 1977 (昭和52) 年度 | 2 | 0 | 二十年史 | 1998 (平成10) 年度 | 8 | 不明 | 紀要 |
| 1978 (昭和53) 年度 | 2 | 1 | 二十年史 | 1999 (平成11) 年度 | 9 | 不明 | 紀要 |
| 1979 (昭和54) 年度 | 0 | 1 | 二十年史 | 2000 (平成12) 年度 | 5 | 不明 | 紀要 |
| 1980 (昭和55) 年度 | 2 | 0 | 二十年史 | 2001 (平成13) 年度 | 6 | 不明 | 紀要 |
| 1981 (昭和56) 年度 | 3 | 0 | 二十年史 | 2002 (平成14) 年度 | 4 | 不明 | 紀要 |
| 1982 (昭和57) 年度 | 7 | 0 | 二十年史 | 2003 (平成15) 年度 | 7 | 不明 | 紀要 |
| 1983 (昭和58) 年度 | 3 | 0 | 二十年史 | 2004 (平成16) 年度 | 2 | 不明 | 紀要 |
| 1984 (昭和59) 年度 | 不明 | 不明 | なし | 2005 (平成17) 年度 | 7 | 不明 | 紀要 |
| 1985 (昭和60) 年度 | 2 | 不明 | 紀要 | 2006 (平成18) 年度 | 2 | 不明 | 紀要 |
| 1986 (昭和61) 年度 | 3 | 不明 | 紀要 | 2007 (平成19) 年度 | 3 | 不明 | 紀要 |
| 1987 (昭和62) 年度 | 3 | 不明 | 紀要 | 2008 (平成20) 年度 | 2 | 不明 | 紀要 |
| 1988 (昭和63) 年度 | 4 | 不明 | 紀要 | 2009 (平成21) 年度 | 5 | 不明 | 紀要 |
| 1989 (平成元) 年度 | 4 | 不明 | 紀要 | 2010 (平成22) 年度 | 0 | 不明 | 年報 |
| 1990 (平成2) 年度 | 5 | 不明 | 紀要 | 2011 (平成23) 年度 | 2 | 不明 | 年報 |
| 1991 (平成3) 年度 | 2 | 不明 | 紀要 | 2012 (平成24) 年度 | 不明 | 不明 | なし |
| 1992 (平成4) 年度 | 4 | 不明 | 紀要 | 2013 (平成25) 年度 | 不明 | 不明 | なし |
| 1993 (平成5) 年度 | 9 | 不明 | 紀要 | 2014 (平成26) 年度 | 不明 | 不明 | なし |

修了生の変遷からは、1976 (昭和51) 年度から2011 (平成23) 年度までの多くの期間で複数の在籍者がいたことが示唆される。これらの数からは、院生同士の学び合いが可能であり、博士課程への進学者が一定数いたことが予想される。そこで、次に3種類の文献の修士論文論題一覧から、その傾向と博士課程進学者との関係性を指摘したい。

修士論文論題一覧については、『明星大学20年史』に教育学専攻設置以来11年間の博士論文・修士論文の論題が公開されている。そのほかの2誌については、論文誌の性格を含めて紹介する。

『教育学研究紀要』は1986 (昭和61) 年3月に創刊された明星大学教育学研究室発行の雑誌である。当時の児玉三夫学長による創刊の辞では、人文学部心理・教育学科と大学院人文学研究科教育学専攻の歴史に触れ、これを構成する教職員を「教育学研究室」と表現している⁴⁰⁾。また、創刊号の編集後記で当時の教育学専攻主任であった岡田正章は、「この明星大学教育学研究紀要を発刊することにより、教育学研究室の教員はいうまでもなく、本学大学院在生および大学院修了者にも、その研究成果を発表する機会が得られる」ことを期待する旨を述べている⁴¹⁾。同書の巻末には人文学研究科教育学専攻の修士論文題目一覧 (号によっては修士論文概要) と心理・教育学科教育学専攻卒業論文題目一覧が掲載されており、人文学研究科教育学専攻修士課程の研究テーマの変遷や修了生の人数をおおまかに把握することができる。

人文学研究科『年報』は、2003 (平成15) 年3月に創刊された人文学研究科発行の論文誌であり、当時の堤史朗人文学研究科長による創刊の辞には、「若い研究者の研究能力錬磨の場となるとも

に、教員との間で研究上の緊張関係を醸成する場」となることが期待されると述べられている⁴²⁾。同書には、院生による投稿論文のほか、修士論文の要旨が掲載されているが、院生による投稿の方式を取っているため、全ての院生の要旨が掲載されているわけではない。

上記3誌を概観すると、教育思想、教育哲学、教育史、幼児教育、教育課程、生涯教育（生涯学習）といった担当教員の専門領域だけでなく、看護教育や教育実践を必要とする社会人大学院生や、海外の教育制度・教育方法を必要とする留学生が存在した。また、担当教員の専門性と直接は関わらないものの、図書館情報学を専攻して他大学の大学院博士課程に進学した者もいる。加えて、人文学研究科教育学専攻の修士課程から博士課程への進学者が定期的に存在した。

修士課程修了生に続き、博士学位取得者の変遷についても指摘しておきたい。明星大学の博士論文については、国立国会図書館に寄贈されたものは「国立国会図書館サーチ」で検索可能であり、明星大学図書館に所蔵されているものは「明星大学図書館 OPAC」で学位番号まで含めて検索可能である。また、博士論文提出時にオンライン公開の許諾が取れたものは明星大学学術機関リポジトリに掲載されている。上記を用いて整理した内容は別表1「明星大学大学院「教育学専攻」沿革と博士学位取得者」の通りである。

別表1を見ると、明星大学第一号の文学博士が教育学専攻の李園会であったことが分かるが、1991（平成3）年に学位規則等の改正があったことからその後の学位とは表記が異なっている。李を筆頭に、その後10名以上の博士学位取得者がいる。また、明星大学をはじめとして大学等の研究者になっている者も見出すことができる。

さて、ここまで人文学研究科教育学専攻の修士課程と博士課程の変遷について、修了生を焦点に概観してきたが、開設当初に兎玉九十が意図していた「教授後継者の養成」はどの程度達せられたのであろうか。例えば、他専攻においては、1973（昭和48）年社会学専攻入学の高島秀樹は明星大学助手となり、後に明星大学人文学部教授となって最終的には副学長を務めた。また、同年理工学研究科化学専攻に入学した赤間美文・澤田忠信・原田久志の3名は、いずれも明星大学理工学部教授となった⁴³⁾。教育学専攻においても、明星大学3期生（心理・教育学科教育学専修としては2期生）であった青木秀雄がアフリカにおける小学校勤務を経て人文学研究科に進学し、後に教育学部教授（2022年現在は名誉教授）となっている⁴⁴⁾。しかしながら、『明星大学十年史』や『明星大学20年史』において大学院修了生の就職情報は公開しておらず、他の周年史についても同様である。

そこで、教育学専攻の修士論文提出者及び博士論文提出者の氏名を参考に、大学等の高等教育機関の教職にある（もしくは教職にあった）研究者をWEB検索と文献等で照会した。照会方法は、2022年8月30日時点でgoogle検索において氏名を入力した上で、大学や研究者情報に関するWEBサイト、もしくは著書や論文等の書誌事項に氏名と所属の掲載があり、かつ明星大学大学院人文学研究科教育学専攻修了者としての学歴情報を照会できた者を整理したものが別表2「明星大学大学院「教育学専攻」沿革と博士学位取得者」である。少なくとも19名の教育学専攻修了者が大学等の研究者となっている。なお、この表は通学課程の教育学専攻修士課程・博士課程いずれかを修了した者を対象として作成しており、研究生と通信教育課程（通信制大学院）のみを修了した者は含んでいない。さらに、照会した中には現在の情報が不明な者もあり、引き続き情報収集が必要である。

5. まとめと課題

本稿では学校資料を用いて明星大学大学院の設置と教育学専攻修士生の変遷を論じた。明星大学大学院の設置目的は「学部における一般的並びに専門的教育の基礎の上に、高度にして、専門的な学術の理論及び応用を教授、研究し、その深奥を極めて、知的、道徳的及び応用的能力の展開により全人間形成につとめ国家、社会に貢献し得る有能な人材を育成すると共に、人類文化の発展に寄与することを目的とする。」であり、初代学長児玉九十は大学院設置の役割に、卒業後も大学に残る希望者に応じることと、「教授後継者の養成」を位置付けていた。

これらを踏まえ、人文学研究科教育学専攻の修士生の変遷を検討した。修士課程では不明の4年間を除いた149名の修士生を輩出した。また、本学で初めて博士課程を開設した専攻であり、1983(昭和58)年の李園会による博士論文が本学第一号の文学博士となり、その後10名を超える学位取得者を輩出した。さらに、各年代の修士論文と博士論文の提出者を照会した結果、19名が大学等の研究者になっていた。このことから、大学院設置の目的であった「高度にして、専門的な学術の理論及び応用を教授、研究し、その深奥を極めて、知的、道徳的及び応用的能力の展開により全人間形成につとめ国家、社会に貢献し得る有能な人材を育成する」については一定の成果を得たと考えることができ、「教授後継者の養成」の役割を果たしてきたと言えよう。一方で、「国家、社会に貢献し得る有能な人材」や「教授後継者」は大学等の教員や研究者に限定されないため、より正確な修士生の進路の検討が必要であると考えられる。また、設置目的の「学部における一般的並びに専門的教育の基礎の上に」の文言については学部の開設科目と大学院の開設科目を照合し、その変遷を更に検証する必要がある、十分に論じることができなかった。加えて、「人類文化の発展に寄与すること」については本研究の方法で明らかにすることはできなかった。

このことから、今後の課題を2点挙げる。1点目は、各時代の学校資料において、大学院開講科目ごとの内容を詳細に整理することである。研究の過程で1980年代以降の大学院便覧に科目内容の記載があるという情報を得たため、学校資料の収集と整理に努めたい。2点目は、修士生の変遷や研究科の歴史を踏まえて、教育学専攻に関わった研究活動・社会活動を整理し検証することである。

注

- 1) 寺崎昌男「自校教育の役割と大学の歴史 -アーカイブスの使命にふれながら」『金沢大学資料館紀要』5、2009年、p.3。
- 2) 同上書、p.7-8。
- 3) 1965(昭和40)年創刊。高島秀樹「明星大学開設初期における『研究紀要』(2)：人文学部：明星大学開設初期における『研究紀要』(2)：人文学部：解題」『明星：明星大学明星教育センター研究紀要』(6)2016年、pp.39-53に目次、巻頭言、編集後記が収録されている。同書は明星大学学術機関リポジトリの以下のURLにおいてWEB公開されている。[http://id.nii.ac.jp/1225/00000871/\(2022.08.28確認\)](http://id.nii.ac.jp/1225/00000871/(2022.08.28確認)) なお、本稿では紀要収録版ではなく原典を確認している。
- 4) 1967(昭和42)年創刊。明星大学通信教育部の開設に合わせて「毎日顔を合わせて勉強することの出来ない皆さんが、それぞれの場所で、つながりあっているという実感を持つため」に、事務的役割だけでなく多様な記事から編集された学内情報誌である。『めいせい時報』より早い時期から出版されており、『明星大学十

年史』以前のまとまった教員プロフィールを確認することができる。本稿の目的となる大学院の記事はほとんどないが、大学院と共通する人文学部心理・教育学科教員のプロフィールが顔写真込みで詳しく述べられている。（『編集後記』『めいせい』1(1)、1967年、p.24。）

- 5) 1969(昭和44)年創刊。創刊号において、学長・児玉九十がその目的を、「大学内に於けるいろいろな情報を大学関係者に一刻も早く速にしらせ、毎日の大学生活をお互いがよく理解し合って、研究、人間性開発というカレッジライフを明朗快活で豊かなものにしようということなのであります」と述べている。教職員だけでなく、時には学生も執筆者となり、初期においては月刊のペースで発行された雑誌であり、明星大学の学内情報を知ることができる文献である。また、記事の多くに執筆した教員の写真が掲載されている。（児玉九十「明星大学時報発刊に際して」『めいせい時報』一〇・一一月号(1)、1969年、p.2。）
- 6) 1970(昭和45)年作成の学内資料(明星大学企画ユニット所蔵)。資料の表紙には「昭和四十六年度 明星大学大学院「学長並びに学部及び学科別担当教育予定表」「教員個人調書」学校法人明星学苑」と記されている。原文は縦書きだが横書きに改めた。同書には明星大学大学院の設置に関する書類として、「明星大学大学院設置要項」が綴じられている。
- 7) 1971(昭和46)年作成の学内資料(明星大学企画ユニット所蔵)。資料の表紙には「昭和四十七年度開設明星大学大学院「設置要項」「教員採用予定表」及び「担当教員予定表」 学校法人明星学苑」と記されており、原文は縦書きだが横書きに改めた。
- 8) 1972(昭和47)年の文部省通知。(明星大学企画ユニット所蔵)。1971(昭和46)年11月30日の申請を受けて、1972(昭和47)年3月30日に明星学苑理事長宛てに出された通知である。理工学研究科土木工学専攻と人文学研究科教育学専攻の修士課程の増設を承認するとともに、留意事項を示して実施を求める内容も記されている。
- 9) 1986(昭和61)年3月に創刊された明星大学教育学研究室発行の紀要であり、明星大学大学院人文学研究科教育学専攻の担当教員や博士課程の大学院生による論文を掲載しているほか、巻末に教育学専攻修士論文論題一覧(年度によっては概要)と心理・教育学科教育学専攻の卒業論文一覧が掲載されている。また、臨時で退職者や物故者の紹介を行う号や、教育学研究室のあゆみを掲載する号もある。
- 10) 2003(平成15)年3月に創刊された明星大学人文学研究科発行の論文誌であり、教育学専攻以外のすべての専攻も対象としている。院生にも投稿資格が与えられ、論文(または論文要旨)・研究ノート・書評・資料の各欄を設けることが定められていた。なお、論文要旨は修士論文と博士論文のいずれも投稿できたが、「投稿」であるため修了したすべての院生の論文要旨が収録されているわけではない。
- 11) 2014(平成26)年4月1日の教育学研究科設置のための申請書類(明星大学企画ユニット提供)。「設置の趣旨及び必要性」「教育研究上の目的と養成する人材」など15の項目と資料編から成る。同書は2022(令和4)年8月30日現在、明星大学 WEB サイトにおいて掲載されている。明星大学 WEB サイトの「明星大学の情報公開」<https://www.meisei-u.ac.jp/johokokai/index.html>(2022年8月30日確認)
- 12) 1974(昭和49)年発行の周年史である。編集体制は不明だが多くの項目に責任表記が確認できる。「大学院」の項目が設けられ、「内容と特色」「教育課程と担当者」「年度別入学者数」が記載されている。また、当時専任の全教職員の顔写真が掲載されている。
- 13) 1984(昭和59)年発行の周年史であり、書名の「20」がアラビア数字なのは原文ママである。大学院の専攻ごとに説明があり、教育学専攻には「概要」「教育科目と担当者一覧」「主な研究活動」「博士論文」「修士論文」「院生の研究」の項目が記載されている。また、大学院の「年度別専攻別入学者数」「年度別専攻別修了者数」も掲載されており、教育学専攻設置から11年間の変遷を確認することができる。
- 14) 2004(平成16)年発行の周年史であり、編纂委員会委員長は氏原淳一、副委員長は森下恭光である。編集後記は森下が書いており、実質的な代表であったと考えられる。明星大学の歴史叙述の中に大学院関連の内容もあり、1999(平成11)年の通信制大学院開設から最も近い記述である。また、資料として「最近10年間の在籍学生数の推移」が記されているが、大学院は研究科単位となっており教育学専攻単独の推移を確認することはできず、通信課程の記載もない。
- 15) 2014(平成26)年発行の周年史であり、編纂委員会委員長は高島秀樹である。四十周年史と同様に、明星大学の歴史叙述の中に大学院関連の内容があるが、発行時期の関係で教育学研究科は年表に名称が記載されているのみである。年表には学部と大学認に関する内容が示されており、大学院の各専攻の開設・増設

を確認することができる。また、資料に「学長等歴代役職者一覧」があり、1996(平成18)年以降の研究科長を確認することができるが、専攻主任を確認することはできない。

- 16) 明星大学五十周年史編纂委員会編『明星大学五十周年記念誌I ― 五十年の歴史』明星大学、2014年、p.26。
- 17) 「昭和46年度開設明星大学大学院設置要項」1970年、p.1。
- 18) 「大学院設置認可 人文学研究科(社会学専攻)」『めいせい時報』三・四月号(12)、1971年、p.48。実際には「国家社会」の間の読点が欠けているが、誤記と考えられる。
- 19) 児玉九十「研究紀要第七号発刊に際して」『明星大学研究紀要―人文学部―』(7)、1971年、冒頭ページ(ページ番号無し)。
- 20) 「昭和47年度開設明星大学大学院設置要項」1971年、p.1。
- 21) 「大学院の研究科および専攻の増設について(通知)」1972年。承認者は文部大臣高見三郎である。なお、通知には文部省大学学術局長木田宏の署名で、「新築予定の図書館は計画通り完成すること。」「専門図書および学術雑誌はさらに増強することが望ましい。」「理工学研究科については、中堅教員を増強すること。」と記されている。当時の図書館の実態については『めいせい時報』の巻末が詳しく述べているが、十周年記念事業を受けて図書館が新設されたようである。当時新設された図書館は、2022(令和4)年8月30日現在では明星大学資料図書館として利用されている。
- 22) 前掲「昭和47年度開設明星大学大学院設置要項」、p.4。
- 23) 『めいせい時報』六月号(21)、1972年、p.41。科目の順番や科目名のローマ数字に()がついている点は申請書類と異なるが、原典の通り表記した。また、職階については兼任や外部講師も含む可能性があると考えられるが、原典ママとした。
- 24) MK「編集後記」『明星大学研究紀要―人文学部―』(8)、1972年、奥付ページ(ページ番号無し)。なお、奥付にある編集後記署名の「MK」については、高島が「当時明星大学副学長であり後に第2代学長となった児玉三夫」と指摘している。(高島秀樹「【解題】明星大学開設初期における『研究紀要』(1)―理工学部―」『明星：明星大学明星教育センター研究紀要』(5)2015年、p.89。)
- 25) 「研究室めぐり 教育学研究室」『めいせい時報』四・五・六月号(28)、1973年、p.58。なお、国立国会図書館では「飯田晃三旧蔵資料(文部省調査局調査課資料)」の説明の際に略歴を以下のようにまとめている。
大正10年4月旧制第一高等学校文科丙類(仏語)に入学、昭和2年3月東京帝国大学文学部教育学会(廣嶋注：原文ママ)卒業、大学院に進学しフランスの教育史研究を進め、昭和3年12月に同文学部助手に就任。昭和13年9月、陸軍省と文部省の要請で中国の軍特務部に督学間(廣嶋注：原文ママ)として赴任し、翌年1月青島特別公署教育局副局長、昭和16年8月には北京師範大学・教育学院教授に就任した。戦後、中国から帰国し、昭和22年1月に文部省調査局調査課に勤務し、その後昭和25年11月に国立教育研究所に転出、昭和30年には東京都立大学人文学部教授となり、その後、明星大学人文学(廣嶋注：原文ママ)心理・教育学科主任教授となった。
国立国会図書館WEBサイト「飯田晃三旧蔵資料(文部省調査局調査課資料)」https://crd.ndl.go.jp/reference/detail?page=col_view&id=3000002651(2022.8.27確認)
- 26) MK「編集後記」『明星大学研究紀要―人文学部―』(10)、1974年、奥付ページ(ページ番号無し)。「本誌掲載が絶筆となる」と書かれており、編集後記の中で「5月7日心理教育学科主任安部三郎教授が逝去された。真実に惜しい。」と追悼している。この他に、安部の追悼記事として、『めいせい時報』に児玉九十の追悼文とともに故人の業績が掲載されている。
児玉九十「弔事により安部三郎先生を偲ぶ」『めいせい時報』六・七月号(36)、1974年、pp.6-7。
- 27) 明星大学通信教育部『めいせい』1(2)、1967年、pp.14-15。写真については『明星大学十年史』の方が掲載数が多いが、十年史発行時に逝去した安部の写真を掲載するために同書を出典とした。
- 28) 前掲『明星大学五十周年記念誌I ― 五十年の歴史』p.28。
- 29) 明星大学十年史編纂委員会編『明星大学十年史』明星大学、1974年、pp.243-244。職階については兼任や外部講師も含む可能性があると考えられるが、原典ママとした。
- 30) MK「編集後記」『明星大学研究紀要―人文学部―』(10)、1974年、奥付ページ(ページ番号無し)。
- 31) 「設置の趣旨等を記載した書類」p.1。なお、設置の趣旨及び必要性以外の項目は、2022年現在の「学生

募集要項」で目にすることができる内容と共通である。

- 32) 前掲『明星大学五十周年記念誌I — 五十年の歴史』pp.131-140から大学院に関連する記述を抜粋して作成。同書には理工学研究科化学専攻修士課程増設の記載がないため、『明星大学20年史』p.345から最初の入学者があった1973(昭和48)年と推定して加筆した。また、開設、増設の用語については、同誌の用例を踏襲し、研究科が新設された場合を「開設」、研究科内に新しい専攻ができた場合を「増設」としているが、途中から表記が揺れているため適宜修正した。なお、人文学研究科教育学専攻(通信課程)については学内の組織図(『五十年史』p.126など)で別系統とされているため、「開設」と表記する。
- 33) 厳密には人文学研究科教育学専攻で最後の博士課程(博士後期課程)在籍者が学位を取得したのは2019(平成31)年3月であるが、教育学研究科の成立年である2014(平成26)年を区切りとしてこの数字とした。
- 34) 2022(令和4)年8月25日、明星大学アドミッションセンターに問い合わせ、当時の学生募集要項から「人文学研究科 教育学専攻 最終年度 2012年度実施 2013年度入学・入学定員(博士前期課程:博士後期課程)10名:3名」の回答を得た。なお、実際の募集要項の経年変化を全て確認したわけではないため、今後継続的に確認する必要がある。
- 35) 前掲『明星大学十年史』p.244。
- 36) 明星大学20年史編纂委員会編『明星大学20年史』明星大学、1984年、p.345。
- 37) 同上書、p.346。なお、原典にはカッコ付きの数字で在籍者に占める女子の人数を示しているが、表6では体裁統一のため割愛した。
- 38) 表の出典は、『明星大学20年史』を「二十年史」、『教育学研究紀要』を「紀要」、人文学研究科『年報』を「年報」と表記している。『教育学研究紀要』の修士論文論題一覧(年度によっては概要)が存在する1985(昭和55)年度から2009(平成21)年度までは同紀要を優先的に出典とした。2010(平成22)年と2011(平成23)年度については、人文学研究科『年報』を出展として表を作成している。人文学研究科『年報』は2012年3月に終刊となっており、2016(平成28)年3月に『教育学研究科年報』が発刊されるまでの間は、論文誌による修了者の確認はできないため「不明」としている。実際には、『教育学研究科年報』発刊の際に、「不明」の時期の大学院生の修士論文の要旨掲載を呼びかけたが、掲載するには至らなかった。
- 39) 1973年度から1983年度までは前掲『明星大学20年史』p.346から作成。なお、博士課程の「修了」は単位修得修了のことであり、学位論文の提出を伴ったものではない。この点については、『明星大学20年史』において、「博士課程にあつては、研究論文の提出は義務づけられてはいないが、課程修了後一定の年限内に研究の成果を学位請求論文として提出したものについては文学博士(課程博士)の学位が授与される」と説明されている。(同上書、p.264)
1985年度から2009年度までは『教育学研究紀要』の修士論文一覧・概要から作成。
2010年度から2012年度までは人文学研究科『年報』の修士論文要旨から作成。
- 40) 明星大学教育学研究室『教育学研究紀要』(1)、1986年、p.1。
- 41) 同上書、奥付ページ(ページ番号なし)。
- 42) 明星大学大学院人文学研究科『年報』(1)、2003年、p.1。なお、院生の論文等の投稿については質が十分でないものもあり、人文学研究科『年報』発行当初の意図であった「緊張関係の醸成」となり得たかは疑問が残る。
- 43) 3名が入学した第2回大学院入学式については、『めいせい時報』に記載されている。
前掲『めいせい時報』(28)、pp.30-31。
- 44) 大学院入学1期生の中では、理工学研究科土木工程専攻の秋山哲男が東京都立大学教授となっている

謝辞

明星大学学苑連携推進グループの長谷川倫子様から貴重な学校資料のご提供をいただいた。ここに深く感謝申し上げます。

付記

本稿は2022年9月1日に実施された明星大学大学院教育学研究科FD研修会の報告資料を加筆修正したものである。

別表1 明星大学大学院「教育学専攻」沿革と博士学位取得者

| 時 期 | 事 項(「教育学専攻」沿革と博士学位取得者) |
|-------------------|---|
| 1964(昭和39)年4月1日 | 明星大学開学 |
| 1971(昭和46)年4月1日 | 明星大学大学院人文学研究科開設 |
| 1972(昭和47)年4月1日 | 明星大学大学院人文学研究科教育学専攻修士課程増設 |
| 1974(昭和49)年4月1日 | 明星大学大学院人文学研究科教育学専攻博士課程開設 |
| 1983(昭和53)年3月 | 博士学位論文(課程博士)、番号不明、李園会『日本統治下における台湾初等教育の研究』(明星大学、文学博士)。本学第一号の文学博士の学位取得者。注1 |
| 1999(平成11)年4月1日 | 明星大学大学院人文学研究科教育学専攻に通信教育課程(修士課程)を開設(併設)注2 |
| 2001(平成13)年3月24日 | 博士学位論文(課程博士)甲第25号、王亨良『現代中国教育課程変遷史の研究』(明星大学、博士(教育学)) |
| 2001(平成13)年10月25日 | 博士学位論文(論文博士)乙第8号、山本礼子『米国対日占領下における「教職追放」と教職適格審査』(明星大学、博士(教育学)) |
| 2004(平成16)年3月24日 | 博士学位論文(課程博士)甲第29号、河京杓『日本と韓国の教育課程の比較研究：その決定過程を中心に』(明星大学、博士(教育学)) |
| 2005(平成17)年3月24日 | 博士学位論文(課程博士)甲第34号、佐々木秀美『わが国の看護教育の歴史に関する研究』(明星大学、博士(教育学)) |
| 2006(平成18)年3月24日 | 博士学位論文(課程博士)甲第36号、中津川順子『看護教育における探求学習の研究』(明星大学、博士(教育学)) |
| 2006(平成18)年4月1日 | 明星大学大学院人文学研究科教育学専攻に通信教育課程(博士課程)を増設 |
| 2008(平成20)年3月24日 | 博士学位論文(課程博士)甲第41号、板野和彦『ジャック＝ダルクローズの音楽教育観の変遷に関する研究』(明星大学、博士(教育学)) |
| 2008(平成20)年3月24日 | 博士学位論文(論文博士)乙第19号、金英熹『韓国における3歳未満児保育にかかわる園長・保育者・保護者の育児意識に関する研究』(明星大学、博士(教育学)) |
| 2009(平成21)年3月24日 | 博士学位論文(論文博士)乙第20号、高浦勝義『ジョン・デューイの実験学校カリキュラムの研究』(明星大学、博士(教育学)) |
| 2010(平成22)年3月24日 | 博士学位論文(課程博士)甲第49号、廣嶋龍太郎『森有礼の体育論』(明星大学、博士(教育学)) |
| 2010(平成22)年3月26日 | 通信制大学院の博士論文第一号(甲第C1号)が出る。その後は通信制大学院が通学課程を上回る学位取得者を輩出する。 |
| 2011(平成23)年3月24日 | 博士学位論文(課程博士)甲第52号、長谷川ひとみ『生涯学習社会を目指す学校と地域との連携の在り方：家庭・地域社会の特色を生かした設楽町立・5つの小学校の教育実践を中心に』(明星大学、博士(教育学)) |
| 2014(平成26)年4月1日 | 明星大学大学院人文学研究科教育学専攻を教育学研究科教育学専攻に改組 |
| 2014(平成26)年4月1日 | 明星大学大学院人文学研究科教育学専攻(通信課程)を教育学研究科教育学専攻(通信課程)に改組 |
| 2016(平成28)年3月24日 | 博士学位論文(論文博士)乙第28号、薛格芳『「台湾歴史」教科書形成史研究：ナショナル・ヒストリーの模索』(明星大学、博士(教育学)) |
| 2019(平成31)年3月24日 | 博士学位論文(課程博士)甲第65号、緒賀正浩『被占領期教育改革における教育勅語「処理」：政治過程的視点を用いて』(明星大学、博士(教育学))。人文学研究科最後の博士(教育学)学位取得者。 |

注1 李の博士論文については、国立国会図書館に「博士論文」「明星大学、文学博士」「国立国会図書館書誌ID000000344481」として登録されている。同書の序には、論文は「1980年10月に完成」と記されており、奥付の発行年は「1981年4月1日」であるが、授与は1983年3月である。この点については、『明星大学20年史』において以下の記述がある。

「博士課程にあっては、研究論文の提出は義務づけられてはいないが、課程修了後一定の年限内に研究の成果を学位請求論文として提出し、厳密な審査に合格したのについては文学博士(課程博士)学位が授与される。」

これに続いて、教育学専攻にあっては李が本学第一号の文学博士の学位取得者であったことが記されている。番号については学校資料が見つからず、1991年以降の学位とは「学位規則」が異なるため「不明」と表記した。なお、1979年修了当初の李の論文名は『日本統治下における台湾教育政策の研究』であったため、その後修正されたものとみられる。学位審査体制については不明である。主査も不明であるが、主として飯田晃三から指導を受けた旨が記されており、主査であった可能性が高い。(李園会『日本統治下における台湾初等教育の研究』1981年、pp.1-4、奥付、明星大学20年史編纂委員会編『明星大学20年史』P.264、268。)

注2 『明星大学四十年史』では、「大学院設置基準」の改正によって大学院修士課程に通信教育課程を開設することが可能になったことを受け、「人文学研究科教育学専攻修士課程にかねてより計画していた通信教育課程を併設することになった。」と記している。(創立40年史編纂委員会編『明星大学四十年史』創立40年史編纂委員会、2004年、p.98。)

【参考文献】

- 明星大学20年史編纂委員会編『明星大学20年史』明星大学、1984年
 創立40年史編纂委員会編『明星大学四十年史』創立40年史編纂委員会、2004年
 明星大学50年史編纂委員会編『明星大学五十周年記念誌I—五十年の歴史』明星大学、2014年
 「明星大学学術機関リポジトリ」<https://meisei.repo.nii.ac.jp/>(2022.08.27確認)
 「明星大学図書館 OPAC」<https://opac.hlib.meisei-u.ac.jp/scripts/mgwms32.dll>(2022.08.27確認)
 「国立国会図書館サーチ」<https://iss.ndl.go.jp/>(2022.08.27最終確認)

別表2 人文学研究科教育学専攻修了の研究者（大学等に勤務・論文博士は除く）

| 氏名 | 所属等 |
|--------|------------------------------|
| 青木秀雄 | 元明星大学教育学部教育学科 教授（現 明星大学名誉教授） |
| 浅岡靖央 | 白百合女子大学人間総合学部児童文化学科 教授 |
| 森下由規子 | 明星大学教育学部教育学科 教授 |
| 菱山覚一郎 | 明星大学教育学部教育学科 教授 |
| 田中均 | 昭和女子大学人間文化学部 日本語日本文学科 准教授 |
| 大島弓子 | 豊橋創造大学保健医療学部看護学科 教授 |
| 佐々木秀美 | 広島文化学園大学看護学部看護学科 教授 |
| 板野和彦 | 明星大学教育学部教育学科 教授 |
| 望月道浩 | 琉球大学学校教育学部 教授 |
| 八木浩雄 | 武蔵野短期大学幼児教育学科 准教授 |
| 味形修 | 明星大学教育学部教育学科 常勤教授 |
| 石川賀一 | 駿河台大学メディア情報学部 講師 |
| 板橋政裕 | 明星大学教育学部教育学科 准教授 |
| 今井康晴 | 東京未来大学こども心理学部 こども心理学科 准教授 |
| 廣嶋龍太郎 | 明星大学教育学部教育学科 教授 |
| 長谷川ひとみ | 星槎大学非常勤講師 |
| 桑原和也 | 明星大学非常勤講師 等 |
| 笹川 啓一 | 目白大学人間学部子ども学科 専任講師 |
| 緒賀正浩 | 明星大学非常勤講師、武蔵野大学非常勤講師 等 |